

## 「下痢を防いで生産性向上！」 子牛の下痢対策について

子牛の下痢症は発育不良や死亡をまねき、それによる経済的損失は大きく、肉用牛飼養農家にとって下痢症予防対策は重要課題です。

一旦、下痢をするとたとえ下痢が治っても、発育が遅れ、子牛が高く売れません。下痢を見つけて治療するよりも、日頃の予防が大切です。 下痢の原因は下記のように考えられていますが、特に寄生虫や原虫によるものが多いです。

濃厚感染を受けたりストレスがかかると、牛肺虫は肺炎、糞線虫は突然死を起こすことがあります。感染牛は発病のリスクだけでなく、他の病気に罹り易くなったり、増体重、泌乳量、繁殖などの生産成績に悪影響を及ぼすことが知られています。

原因としては非感染性と感染性が考えられます。

### 非感染性下痢の原因

- ・食餌性（過剰給与、不消化物の給与、不規則給餌、過剰飲水）
- ・消化器性（異物の経口摂取）
- ・神経性（長期輸送等のストレス）
- ・環境性（寒冷、風、湿度等）

### 感染性下痢の原因

- ・ウイルス性（ロタ、コロナウイルス等）
- ・細菌性（大腸菌、サルモネラ菌、クロストリジウム等）
- ・原虫性（**コクシジウム**、クリプトスポリジウム）
- ・寄生虫性（線虫症、乳頭糞線虫症等）

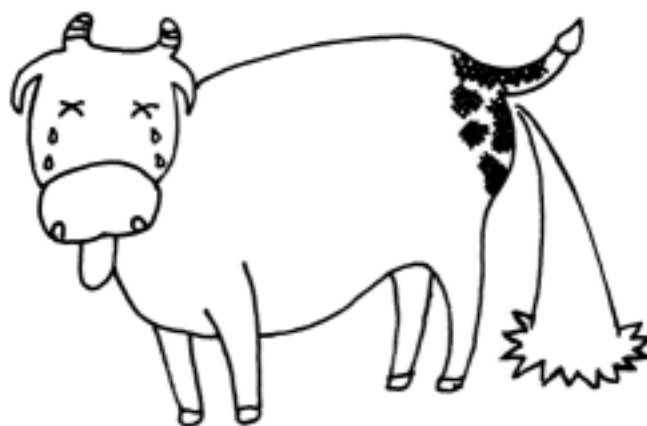
## 「家畜にも快適な梅雨を」

2004年（平成16年）この年は平均気温も高く、雨も多く降り湿った日々が続きました。これは、寄生虫の発育にとっては、抜群に良好な気候でした。

**牛コクシジウムによる血便の下痢**が多くの管内農家で発生し、12月までも**継続的**な発生が続きました、うっとうしく感じているのは、人間様だけではないようです。

「床や敷わらが糞や尿で汚れたまま」という畜舎でも牛だって自由にさせれば、快適な環境を求めて動き回るはず。それは、いろいろな病気から自分を守るための本能といえるでしょう。

高温・多湿は、細菌・<sup>しんきん</sup>真菌(カビ)の最も好む条件です。家畜にとって、その条件を変えてくれるのは、**畜主のあなた**なのです。換気方法や敷料を工夫するだけで、畜舎環境は、ずいぶん変わります。



### 岐阜県飛騨家畜保健衛生所

岐阜県高山市上岡本町7 - 4 6 8 〒506-8688

TEL : (0577) 3 3 - 1 1 1 1 Fax : 32-9019

E-mail : c24508@pref.gifu.lg.jp URL : <http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s24508>

コクシジウムオオシスト



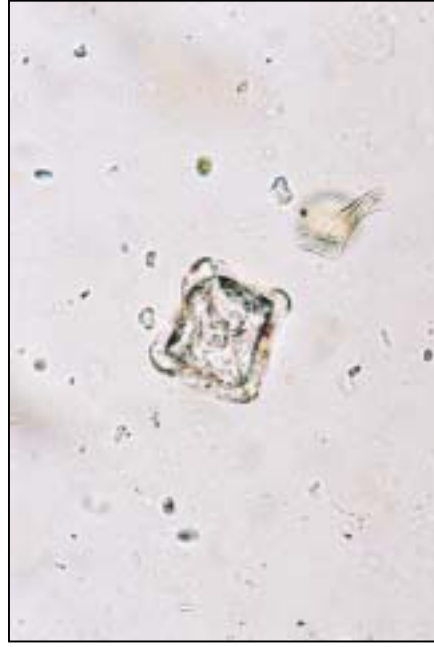
線虫卵1



線虫卵2



ベネデン条虫卵



# コクシジウム病

## ．原因

家畜のコクシジウム病のほとんどは *Eimeria* 属 や *Isospora* 属 の原虫寄生に起因する。宿主特異性が顕著で、一般に属の異なる宿主（動物種）には寄生しない。牛では *E.zuernii*、*E.bovis* の2種類が最も病原性が強い。*Eimeria* 属の発育環は、宿主の糞便とともに排泄された未成熟オーシストが宿主体外の適切な環境下で成熟オーシストとなり、経口感染によって伝播することから始まる。

## ．疫学

コクシジウムは中間宿主をとらず、オーシストの経口感染 によってのみ動物に伝播する。本病は家畜が飼養されているところでは、ほとんど世界中に分布する。

本病の発生は多種の動物でみられ、幼若動物（4ヵ月以上の子牛、約2才までの若牛） に多発する。成牛や哺乳中の子牛は、発病しにくい。

野外ではオーシストの孢子形成が容易な高温多湿時に多いが、飼養形態によっては該当しない場合もある。集約的な育成場や放牧場で集団発生することがある。

## ．症状

原虫の腸管上皮細胞内寄生による下痢、血便、粘血便などのカタル性ないし出血性腸炎症状が主である。

また、種類により症状が異なり、*E.zuernii* および *E.bovis* の濃厚感染による急性コクシジウム病では、軽度の発熱、食欲廃絶、下痢、衰弱、臀部(おしり)の汚れなどがみられる。重症例では、激しい粘血便の下痢、肛門筋が麻痺し、肛門が開いたままになり、脱肛を起こす。細菌などの二次感染を受け、肺炎を併発して死亡することもある。

## ．予防・治療

発生予防には、獣医師に依頼して糞便検査を行い、寄生虫の感染が確認された牛には駆虫を行う。発病時期では、一般に多数のオーシストが検出されるが、検出されない発病初期等でも2～3日検査を続ければ急に増加すると言われている。

治療には、抗コクシジウム剤、主にサルファ剤が使用されるが、耐性を与えるものも多いので注意を要する。重症では補液・栄養剤の投与などの対症療法により回復が早まる。

血便をする牛は直ちに隔離し、適切に糞便の処理を行い蔓延を防止する。

畜舎消毒によりオーシストを死滅させる。

オーシストは種々の薬物に抵抗するが、高温には弱いので、定期的な熱湯蒸気消毒、熱湯クレゾール消毒あるいは1～2%オルソ剤の散布の実施は、オーシストを殺滅する。

スチームクリーナーによる徹底した清掃に加え、生石灰散布の効果も認められている。分娩房、使用器具の清掃消毒の実施、分娩予定牛を入れる前に消毒し、清潔な敷料を敷いておく。哺乳器具等毎日使用するものは必ず洗浄消毒を実施する。

感染しても発病させないように良好な飼養環境の維持に努めることが大切である。

牛舎の床を乾燥させ、体力増強とストレス軽減で子牛の体力を高めておく。

\*何よりも牛床を乾燥させる事が重要です。基本に返り 衛生管理の再確認 をしてください。



下痢の子牛



除糞作業



熱湯消毒中



洗浄後牛房



石灰乳塗布



石灰塗布後

